

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数量目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	責任者の所属・事業内容	
						方法	内容(詳細に記載すること)
10代、20代の献血率を前年同様に35%にする。	献血セミナー	継続	高校生及び大学生	6月2日、7月2日、10月2日、11月3日、3月1日	10回	血液センター及び各献血会場	献血に関する説明を電子受取のみならず献血とDND(WECAN献血)を上映して献血への関心と協力を頂くこととする。
10代、20代の献血率を前年同様に35%にする。実施回数401年度実績2,148名、H23年度目標2,300名	高校献血の全校実施	継続	高校生	7月～2月	県内42校	各高等学校	少子化により生徒数が減少しているため、将来の献血者確保を図るために全高等学校での献血を実施する。
10代、20代の献血率を前年同様に35%にする。	大学献血の全校実施	継続	大学生	4月～1月	県内7大学	各大学	大学構内献血では大学の学生献血推進コンソーシアムによる献血呼び込みと献血ルームのチャラシを配付し、チームのリーダー育成を図る。
10代、20代の献血率を前年同様に35%にする。	17才男子の400ml献血推進強化	新規	奨励対象	5～6月	5回	県内5献血所	県内各献血所が主催する献血推進コンソーシアムから奨励対象に出発票を400ml献血の必要量を説明し、17才男子の400ml献血への関心と協力を頂くこととする。

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数量目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	責任者の所属・事業内容	
						方法	内容(詳細に記載すること)
10代、20代の献血率を前年同様に35%にする。	若年層献血ふれあい事業	継続	小・中・高校生	6月、7月、8月、11月、3月	5回	血液センター及び献血ルーム	献血ルームの見学とDNDの上映を行い、献血に関する説明を行う。
10代、20代の献血率を前年同様に35%にする。	中学生への献血PR	継続	中学生	3月	県内95校	各中学校	県内全中学校の卒業式を対象者9,000人に卒業用パンフレットを配付する。
20代、30代の献血率を増加させる。		継続	各青年会館所メンバー	4月～3月	0回	各献血会場	各青年会館所の定期集会で献血推進員からメンバーへ献血の周知を行い、メンバーは友人、知人へ献血電話等で呼びかけ広く頂くこととする。
20代、30代の献血率を増加させる。		継続	各中学校(習字、演習、自習等)	4月～3月	8回	各献血会場	徒歩通学、各学校の課外スケジュールへ献血協力を入れて頂くように依頼する。

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数量目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	責任者の所属・事業内容	
						方法	内容(詳細に記載すること)
献血協力企業・団体を10社増加させる。		継続	企業及び団体	4月～3月		各事業所等	県内各事業所等にも紹介を働き新規事業所の開拓を行う。
年1回の献血実施団体を年2回に増加させる。(5団体)		継続	企業及び団体	4月～3月		各事業所等	年1回の献血実施団体へ再度依頼する。
企業献血で200名を増加させる。	企業献血の推進	新規	企業及び団体	4月～3月		各事業所等	周知しにくい事業所の献血者3,000名へセンターからダイレクトメールを入れる。
県内約30社の小規模事業所へ献血協力を呼び20社以上に献血率を記録させる。	小規模のきく献血	新規	企業及び団体	4月～3月		各事業所等	小規模事業所へ直接献血車を記録し一日に3ヶ所、4ヶ所の移動献血を行う。

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数量目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	責任者の所属・事業内容	
						方法	内容(詳細に記載すること)
複数回献血協力者を32%までに増加させる。	複数回献血協力者確保対策	継続	献血年1回の献血者	4月～3月		はがき・電子メールによる協力依頼	都庁・ルームの献血者13,000名以上に呼びかけによる献血協力を昨年より多く行い、4月の目標者2700名を上回ることに努める。
複数回献血協力者を32%までに増加させる。	複数回献血協力者確保対策	継続	企業献血者	4月～3月		複数回献血クラブ会員の募集を強化するためのクリアファイルを送付する。	会員の募集に対して記念品の頒布と多くの会員が登録されている血液センターの情報を参考にし、募集強化を図る。(H23:1月来発者数2,095名、H23年度来発者数3,000名)
複数回献血協力者を32%までに増加させる。	複数回献血協力者確保対策	新規	企業及び団体	4月～3月		はがき依頼と増車をを行う。	1. 周知しにくい事業所の献血者3,000名へセンターからダイレクトメールを入れる。2. 年1回の事業所に対し2回の献血実施を依頼する。3. 小規模事業所へ直接献血車を記録する。

⑤ その他

平成23年度の数量目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	責任者の所属・事業内容	
						方法	内容(詳細に記載すること)
献血ルームの献血者を300名増加させる。	献血ルームの複数回献血協力者の確保対策	継続	大学生等	4月～3月		ルームのチラシを配付	移動献血車の献血者並びに大学での献血者に対しルームのチラシ10,000枚を配付する。
献血ルームの献血者を300名増加させる。	献血ルームの複数回献血協力者の確保対策	継続	各事業所等	4月～3月		事業所への献血依頼	ルーム周知事業所へ定期的(春・夏・冬)に献血への依頼を行い100名以上に協力を頂くこととする。
400mlの献血率を83%にする。	17才男子の400ml献血推進強化	新規	高校献血	7月～2月		各高校を訪問し依頼する	県内42校を訪問し、チラシを添付して17才男子からの400ml献血を推進する。(H21年度高校献血17才男子実績約400名からH23年度は400ml～200名以上に協力を頂くこととする。)

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数量目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						方法	内容(詳細に記載すること)
学生ボランティアによる街頭献血活動4会場を実施し、10・20代献血率は35%以上確保する。	学生献血キャンペーン	継続	若年層をターゲットとした街頭献血の実施	7月、12月	4	長野駅前 アピタ飯田店	学生ボランティア(20-30名)により行う。また食料品買付を作成し、献血車には学生が選択した記念品をプレゼントを行い、前年度の献血者を激励する。 ・献血後にアンケート調査を行い今後の献血推進の参考とする。 ・定期内(7月1日)に選定を実施し定例選定として定着を図る。(1回4名、年間2回実施) ・定期日は定休みに選定実施を記録したティッシュを配布し、投票終了後に選定票により献血車を運送に行き、 ・校内献血以外に年1回選定を行い、指定献血の場所を定めていただき今後の献血につなげる。(1回2名、年2回実施)
学生を200名選定	学生の選定	継続	高校生、短大生、専門学校、大学	4月-3月	25	長野県短期大学 長野工業高等専門学校 長野日大高等学校	・校内献血を実施していない大学や学校前、校内で指定献血の地盤の入ったティッシュを配布し指定献血へ献血を呼びかけた。(1回30名、年2回実施) ・校内献血を実施している学校では、キャンペーン用、血液不足時、他内献血実施時に、キャンペーン内容、不足血液量、献血受付時間の案内ティッシュを配布する。(1回500名、年10回配布)
指定施設での学生献血率を10%にする	学校前での啓発物配布	継続	高校生、短大生、専門学校生、大学生	4月-3月	30	指定施設近隣の学校	・献血を推進していたため、学校の行事(文化祭・授業)に献血のポスターを貼付し、献血についての説明会を開催する。(10回) ・看護学生の血液センター見学に併せて献血事業の説明、献血に協力いただく。(10回)
10・20代の献血率を25%にする。	献血セミナー	継続	学生(小・中・高・短大・大学・専門学校)	4月-3月	20	各校 血液センター	・献血を推進していたため、学校の行事(文化祭・授業)に献血のポスターを貼付し、献血についての説明会を開催する。(10回) ・看護学生の血液センター見学に併せて献血事業の説明、献血に協力いただく。(10回)

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数量目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						方法	内容(詳細に記載すること)
土曜・休日の街頭献血実施年120回	幅広い年代の受入	継続	企業内献血をしない方	4月-3月	大型スーパー 福し物会場	買い物客が多い大型スーパー・英会話の多い福し物会場で街頭献血を実施し、小規模企業、大学、短大等献血車が巡回していない人を対象とし献血をお願いする。 ・月10回程度実施し、年間120回を目標とする。	
60歳以上の献血率を5%増加させる	60代増加	新規	60歳以上献血者	4月-10月	2	各献血会場	・60歳を過ぎて後年献血協力がない方の検査をし、献血依頼ははがきを送付する。(約1500名程度) ・平成18年以降60代以上の献血者が増加傾向にあるので、更に平成21年度の60代以上の献血率は5.7%から6.2%に増加を目標とする。

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数量目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						方法	内容(詳細に記載すること)
新規企業10社実施	新規協力企業の確保	継続	100名規模の企業	4月-3月	各事業所等	・従業員100名以上の企業が約800社程度あるが献血をされていない企業約100社のうち20名以上献血に協力いただける企業の献血を実施する。(年間7社) ・従業員100名未満の企業が15名程度献血いただける企業の献血を実施する。(年間5社)	
休止企業10社実施	休止企業の協力依頼	継続	3年以上休止している企業を訪問し実施する。	4月-3月	各事業所等	・平成20年以降献血を実施していない企業の200社の内、再度献血を依頼できそうな企業に対し依頼する。 ・少なくとも年間10社程度の休止企業に再度献血を促す。	

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数量目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						方法	内容(詳細に記載すること)
メールによる献血協力者1,000名、応募率20%	複数回献血クラブ会員	継続	複数回クラブ会員	4月-3月	40	メールによる協力依頼 各献血会場において複数回献血クラブ会員の募集を強化する	・22年度複数回献血クラブ会員数を7,000名に増加させる。 ・月2回の定例、血液不足時メール配付増し、5,000名に依頼し、1,000名の献血者を確保する。
はがきによる献血依頼2,000名、応募率10%	過去の献血者から一定期間未献血者	継続	過去の献血者、献血量減少者	4月-3月	24	はがきによる協力依頼	・1年以上献血していない方を中心に献血を依頼する。 ・年間20,000名の方に献血の依頼を行い、このうち10%、2,000名の献血者を確保する。

⑤ その他

平成23年度の数量目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						方法	内容(詳細に記載すること)
午前開催の90%確保	午前の血小販確保	継続	血小販献血協力者	毎日	56	キャンペーン 依頼 指示 派遣	・午前中の血小販確保のためキャンペーンを年2回実施し、血小販確保する。 ・依頼時(ハガキ・メール)は午前中の協力依頼を依頼し、月2回増設依頼を行い午前中の血小販確保を行う。 ・午前中の血小販確保の必要性を提示し午前中の確保を増やす。 ・市町村職員を午前中に巡回し血小販献血を促す(年30回、100名を確保する。)
指定施設での計画確保	指定施設献血者確保	継続	企業・短大・専門学校	4月-3月	50	献血者選定	・血小販確保、血液確保を目的に定期選定を年40回行う。 ・血液確保の不足時に選定できる企業を10団体まで増やし不足時に選定を行う。

平成23年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

岐阜県 赤十字血液センター

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の取組目標	事業名	具体的な対策・事業内容				内訳(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	
現在15.7%の20代の献血率を30%にする	献血セミナー	継続	大学生及び社会人	4月～3月	10回	献血に関するセミナーを開催し、献血への理解を深めていただく機会を設けた。セミナーは年間10回行い、映像資料(ポスター)を用いて、興味を持って人々の力になれる)、パワーポイント(来年度作成予定)を使用する。実施場所は未定。

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の取組目標	事業名	具体的な対策・事業内容				内訳(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	
青少年のふれあい事業参加者を640人から800人に増加させる	ふれあい事業	継続	中学生・高校生	4月～3月	10回	血液センター4回、血液センター3回、血液センター3回(継続-実施する学校数)

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の取組目標	事業名	具体的な対策・事業内容				内訳(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	
献血協力企業・団体を850から900まで増加させる	献血協力団体増加対策	継続	企業及び団体	4月～3月		新規事業所の開拓を行う。事業所専用血液パック(リーフレット)を用い、関係所、市町村担当者等と同行して新規事業所訪問を行っている。

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の取組目標	事業名	具体的な対策・事業内容				内訳(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	
現状31.0%の複数回献血者を35%まで増加させる	複数回献血協力者確保対策	継続	年間1回の献血者	4月～3月		1. 電子メール及びはがきによる協力依頼 2. 各献血会場において、複数回献血クラブ会員の募集を強化する。 3. 複数回献血キャンペーン 1. 年1回の献血者約30,000人に対し電子メール又ははがきによる複数回の献血協力依頼を行う。 2. 献血会場において、現在2,600名の複数回献血クラブ会員を3,000名に増加させるため、QRコード付きのわかりやすいリーフレットを用い、現場にて複数回献血を勧誘する。 3. 一定期間に協力いただいた方で、指定の期間に再度協力いただいた方に記念品を配布し、年2回以上の献血を促す。

⑤ その他

平成23年度の取組目標	事業名	具体的な対策・事業内容				内訳(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	

平成23年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

岐阜県 赤十字血液センター

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の取組目標	事業名	具体的な対策・事業内容				内訳(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	
10代～20代の献血者を25%にする	献血セミナー	継続	JRC・高校生・大学生・社会人	4月～3月	25	血液センター-企業・大学
10代～20代の献血者を25%にする	新成人への献血PR係設置	継続	新成人	1月	16	成人式会場
県内の高等学校の献血担当教諭との打ち合わせを開催し5校に17歳の生徒の400ml献血を実施してもらう。	高等学校献血打ち合わせ	新規	県内高等学校献血担当教諭		2	血液センター-日参事室

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の取組目標	事業名	具体的な対策・事業内容				内訳(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	
60歳以上の献血者を100名増加させる	献血者増進対策	新規	60歳以上の県民	4月～3月	4	各献血会場
55歳以上の県民の献血者を100名増加させる	献血者増進対策	新規	55歳以上60歳未満の県民	4月～3月	4	各献血会場

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の取組目標	事業名	具体的な対策・事業内容				内訳(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	
献血協力企業を20社増加させる	献血協力企業増進推進事業	継続	企業及び団体	4月～3月		企業及び団体に献血の現状と献血サポート事業の説明を行い献血への理解を深めてもらう。積極的に献血にご協力いただく。
新規・休止献血協力団体を40団体増加させる	献血協力団体増加対策	継続	企業及び団体	4月～3月		新規企業・団体への訪問を引き続き強化する事で献血協力団体の実数を増加させる。

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の取組目標	事業名	具体的な対策・事業内容				内訳(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	
複数回献血クラブの新規登録者を3,000人確保する	複数回献血協力者確保対策	継続	年1回の献血者	4月～3月		各献血会場において複数回献血クラブの積極的募集と引こぎ会員の募集を強化する。 メールはがきによる献血依頼
複数回献血クラブ会員のメールはがきによる献血依頼応答率20.0%を目指す。	複数回献血協力者確保対策	継続	複数回献血クラブ会員	4月～3月		メールはがきによる献血依頼 メール15,000通はがき100,000通により献血依頼要請を行う。

⑤ その他

平成23年度の取組目標	事業名	具体的な対策・事業内容				内訳(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数量目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						予定場所	内容(詳細に記載すること)
若年層(10代・20代)の献血率を30%にする。	若年層献血セミナー	継続	高校生・専門学校生・大学生	4月～3月		血液センター または各学校	①学生献血推進のキャンペーン(夏・春)を開催毎に200人の学生ボランティアを動員して献血会場での声掛けや献血の魅力を伝える。 ②中学生・高校生・大学生の献血率を向上させる。年次目標を設定し、参加者100人、各県の学生ボランティアに参加していただく献血の奨励や必要性などの啓発を図る。 ③大学では学生献血推進を主体とし、学内での献血の普及と協力。90校(複数回開催を含む)の実施を目標とする。 ④専門学校や高校では血液センター職員による献血推進・献血の意義など説明する。現在献血協力いただいている学校については献血(DVD)やリーフレット(英のかたち)等を提供する。

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数量目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						予定場所	内容(詳細に記載すること)
親子献血セミナー(参加者200名)		継続	小学生(親を含む)	7月～8月	5	血液センター 市町村	小学生を対象にセミナーを開催。(ホームページでの広報や開催直前のポスター掲示、セミナーを開催する施設の付近にある小学校へ事前訪問し、セミナーの主旨を過去の開催実績などを通じて説明する。)
出前セミナー(参加者500人)		継続	中・高校生	4月～3月	5	各学校	中・高校生を対象にセミナーを開催。授業や学祭などに出向き献血の話をし、(協力いただいている学校に訪問し献血(DVD)やホームページ等を使用する。)

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数量目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						予定場所	内容(詳細に記載すること)
新規・休職中献血者50社	献血協力団体増加対策	継続	献血未実施企業・団体と休職中企業・団体	4月～3月		各事業所	献血協力のない企業やHPなど調査し社会貢献活動している団体に対して電話等を行い、献血の必要性をお話しする。献血協力団体に対しグループ企業で献血をしていただく企業を紹介してもらう。5年以上献血協力が高まっている企業に再度献血の依頼をする。

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数量目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						予定場所	内容(詳細に記載すること)
複数回献血者を35%まで増加させる	複数回献血協力者確保事業	継続	初回、及び年1回の献血者 複数回献血クラブ未登録献血者	4月～3月	1		1. 複数回献血クラブ会員を目標として2,000名を増加させる。特に、大学・専門学校などの若年層中心の献血会場、イベント会場等複数回献血クラブは電話やサイト・SNS等を活用し、再募集を行う。 2. 初回献血者にはがけで献血後謝辞と複数回献血クラブを勧誘する。 3. 電子メールおよびはがきによる協力依頼

⑤ その他

平成23年度の数量目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						予定場所	内容(詳細に記載すること)
400mL献血率20%		継続		4月～3月			1. 400mL献血のみの会場を作る。 2. 献血回数で400mL献血の推進。 1. 血液センター主催の街頭やスーパー会場にする。2,200mL献血が多い認定施設の状態を確認し、受付時にリーフレット等を使用して400mL献血の重要性を説明する。(5月～10月)
移動献血における1献血あたりの確保単位数0.7単位		継続		4月～3月			1. 事業所、団体の見直し。 2. 移動献血の見直し。 1. 献血者減った企業・団体について内容を検証し、今後の献血への協力体制の見直し。 2. 必要数を確保するため、複数回献血を増やす。

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数量目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						予定場所	内容(詳細に記載すること)
10代・20代の献血率を25%にする	献血セミナー	継続	高校生・大学生・専門学校生・社会人	H24下半年	2回で100人	ショッピングセンター	ショッピングセンターにて異業種連携での講話やO×クイズなど大人から子供までが楽しめる内容としたイベント献血を実施
"	大学・専門学校校内	継続	大学生・専門学校生・教職員	年間を通じて	10回で900人	学内	授業時間内での献血実施と大学等での献血実施。大学・専門学校・高校1校1回実施する。
"	全国統一キャンペーン	継続	高校生・大学生・専門学校生	年間を通じて	8回で400人	ショッピングセンター	献血日目の啓発活動と三夏六花祭団による演説
"	若年層ペア献血キャンペーン	新規	大学生・専門学校生	夏の大学献血	2回で100人	学内	2人以上の若者が対象で献血に協力した場合各商品を進呈し若者の献血を増やす
"	出前啓蒙	継続	小・中・高校生	年度内	3校各1回	小・中・高等学校	血液の働き、大切さを知ってもらう。 動物愛護センター等と連携し、命の大切さを考えてもらう内容にする。

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数量目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						予定場所	内容(詳細に記載すること)
200人	若少年ふれあい事業	継続	小学生と保護者	年度中	4	血液センター	小学生の親子に対して血液の大切さや助け合いの心について親子で楽しめるクイズ・講演会等の開催
「パパママ献血しようよ」キャンペーン 200人	年齢層に応じた献血推進対策	新規	お父さん・お母さん	年度中	12	街頭・ルーム	子供の目線から子供さんとお父さん、お母さんに献血して何と何と、人の役に立つことを理解してもらいながら、パパママが子供達に率先して献血をして頂くキャンペーンとする。20～40代の親子さんを対象として家族揃って献血への理解と協力をめざす。献血していただくお父さん、お母さんには子供さんと同様に献血を進呈する。HP掲載・事前献血PRポスターに記載。

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数量目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						予定場所	内容(詳細に記載すること)
成分献血協力団体を新規10団体増やす	献血協力団体増加対策	継続	全県献血協力企業・団体及び少人数の企業・団体	年度内		血液センター等	認定施設周辺の各団体・企業に成分献血への説明と協力依頼を行い、進捗で献血予定を伝えてもらう。協力いただいた団体は、毎年団体・企業からセンターまでの献血協力者の進捗を行う。
新規献血協力団体20団体増やす	企業における献血の推進対策	継続	企業・団体の職員	年度内		企業・団体内	新規事業所の関係・献血推進事務局担当者に対し企業・グループ会社等を紹介して頂く
3年以上休職状態の献血協力団体20団体の復活	企業における献血の推進対策	継続	企業・団体の職員	年度内		企業・団体内	3年以上休職企業・団体にに対して協力依頼する。企業経営者だけでなく幹部・トップに働きかけて頂く
新入社員献血応援キャンペーン 200人	企業における献血の推進対策	新規	企業・団体の職員	年度内		企業・団体内	企業に新入社員及び企業での初出勤に協力する人を対象に、献血出来た方に商品を進呈し、企業献血の推進を図ることを目的とする

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の取組目標	事業名	具体的な対策・事業内容				回数	方法	内容(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	実施場所			
複数回献血クラブ会員を入会依頼ハガキで500名増加させる	複数回献血者確保対策	新規	複数回献血クラブ未加入者	通年	12	QRコードを印刷したハガキの郵送	毎月、郵送届出で献血した複数回献血クラブ未加入者にQRコード入りの加入依頼ハガキを送り、複数回献血クラブへの参加を促す。	
新種献血(キャンペーンイベント開催時)にメールによる献血要請で応答者数を500人にする	"	継続	複数回献血クラブ会員	通年		メールによる献血依頼	複数回献血での献血キャンペーン等における献血への参加を促すために、地域別に複数回献血クラブ会員を対象に依頼を行う。	
災害による献血依頼で応答者数を年間2000人にする	"	継続	県内在住の成分献血者	通年	12	災害による献血依頼	指定施設での成分献血を誘導するために、誕生日の成分献血者等に依頼票を送る。	
年1回実施企業を年2回実施 7企業	"	継続	企業職員	通年	30	企業団体の理解を得て企業職員に献血説明会	複数回献血キャンペーンを軸に展開する。担当者へは、今後の血液不足等を丁寧に説明する。	
年2回実施企業を年3回実施 5企業	"	継続	企業職員	通年	20	企業団体の理解を得て企業職員に献血説明会	複数回献血キャンペーンを軸に展開する。担当者へは、今後の血液不足等を丁寧に説明する。	

⑤ その他

平成23年度の取組目標	事業名	具体的な対策・事業内容				回数	方法	内容(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	実施場所			
成分献血登録者を100人/月を目途に募集する		継続	成分献血未登録者	通年			移動献血の会場において、献血終了後の休養中に成分献血の説明を行い、必要書類を記入しての記入を依頼する。	
血液センター一帯りで100人確保		新規	近隣住民等	年度内	1	夏祭りの一つとして行う	血液センターのPR、バス・施設の見学・記念写真・出店等	

平成23年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

滋賀県 赤十字血液センター

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の取組目標	事業名	具体的な対策・事業内容				回数	方法	内容(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	実施場所			
高校献血を新たに3校以上実施	高校献血	新規	高校生	4月~3月	5	県内高等学校	現状6校の実施であり全ての学校で400mL献血の基準がある生徒には依頼してはならない。学校の方針が400mL献血は生徒の希望により可能とする高校を対象とし、3校キャンペーン会場(8月の2重集)が上級。献血の必要性や知識を伝える。また献血グッズが当たる抽選会などを実施して若者が寄り戻りやすい工夫をする。	
献血セミナーを開催 各キャンペーン会場に50名	献血セミナー	新規	高校生~大学生	4月~12月	3	県内献血キャンペーン会場		

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の取組目標	事業名	具体的な対策・事業内容				回数	方法	内容(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	実施場所			
小学生~高校生を400名募集 引率登録者を200名募集	青少年ふれあい体験学習	継続	小・中学生及び保護者	7月	1	県内市内献血会場	献血会場近くから近い時期に県内県内で献血クイズや献血についての勉強会を開催する。(随時実施)	

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の取組目標	事業名	具体的な対策・事業内容				回数	方法	内容(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	実施場所			
新規実施機 10社	新規献血団体増強	継続	県内企業	4月~3月	20	滋賀県内	新規献血協力団体を10社以上増やす	

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の取組目標	事業名	具体的な対策・事業内容				回数	方法	内容(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	実施場所			
20団体 200名の増加	献血団体の年間実施回数増加依頼	継続	企業・団体等の献血団体	4月~3月	随時		毎月の記事計画と連携して随時に依頼	
							年1回の実施先に対し年2回の実施を依頼し、20団体平均10名の増で200名を目途	

⑤ その他

平成23年度の取組目標	事業名	具体的な対策・事業内容				回数	方法	内容(詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期	実施場所			
応募者数(実協力者)3,000名	メールはがきによる献血依頼	継続	新種会場等の既協力者	4月~3月	毎月随時		メールはがきにより献血依頼-依頼をする	
新規登録者200名以上	郵送等によるメール会員募集	継続	指定施設等の既協力者	4月~3月	毎月随時		20名以上より新規登録者を募集する	
							指定施設への献血依頼を受けて200名の新規登録を目標にメール会員の募集を行う	

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の取組目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						予定場所	内容(詳細に記載すること)
若年層(16~29歳)の献血者構成比を15%まで上昇させる	献血セミナー	継続	京都府立第一高等学校 門学校新入生	4月	1	日本赤十字社京都府支部	献血事業に関する講演を実施し、献血への理解を深めてもらい、献血推進をいいたく、参加者40人。
"	献血セミナー	継続	京都府青少年赤十字高校 学生メンバー協議会	5月と2月	2	血液センター 日本赤十字社京都府支部	献血事業に関する講演を実施し、献血への理解を深めてもらい、献血推進にご尽力をいいたく、参加者延40人。
"	献血セミナー	継続	京都市成人式来場者	1月	1	京都市勧業館	はたちの献血キャンペーンの一環として献血のPR。 けんけつちゃんと一緒に献血決定・写真撮影。献血推進用DVDの放映。来場者5,000人以上。
"	献血セミナー	継続	高校生	9月	1	京都府立北嵯峨高等学校	学園祭でけんけつちゃんと一緒に献血決定、参加者300人以上。

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の取組目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						予定場所	内容(詳細に記載すること)
親子で40人以上の参加	献血セミナー 「たじろ血液検診 「たじろ血液検診」	継続	小学校高学年とその親子	7~8月	6	献血ルーム 日本赤十字社京都府支部	献血の意義等の勉強会 献血Oメイズ 献血2検決定
100人以上の参加	献血セミナー	継続	京都府青少年赤十字センター トレーニングセンター参加者 (小・中学生)	8月	1	アクトハル宇治	献血の意義等の勉強会 献血ウルトライズ
300人以上の献血協力	献血セミナー 「高校生だよ!! 献血キャンペーン」	継続	京都府内の高校3年生 (卒業予定者)	1~3月	1	献血ルーム 移動献血車	高校卒業予定者へのリーフレット配布
1試合あたり50人以上に検定	献血セミナー	継続	来場者の親子	4~10月	8	京都アストドリームス主催 試合会場	日本女子プロ野球チームとコラボレーションした献血推進。けんけつちゃんと一緒に試合会場で献血決定。
1開催あたり100人以上に検定	献血セミナー	継続	行政主催のふれあいまつり 参加者の親子	4~11月	6	ふれあい実行委員会実施会場	行政とコラボレーションした献血推進とけんけつちゃんと一緒に献血決定
1開催あたり100人以上に検定	献血セミナー	継続	ゆるキャラ等イベント参加者の親子	通年	4	各実行委員会実施会場	実行委員会とコラボレーションした献血推進とけんけつちゃんと一緒に献血決定
児童、保護者併せて60名参加	Kid's献血検体団	継続	小学4~6年生	H23年7月末頃	1	献血ルーム京都駅前	献血に関するセミナーとルーミー見学会を開催し、献血への理解を深めてもらう。また、参加された児童等には献血協力をいいたく、献血説明パネル等を使用する。

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の取組目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						予定場所	内容(詳細に記載すること)
ロゴマークの配布目標41社(団体)	献血協賛企業活動 推進対策	継続	企業及び団体等	4月~3月		各事業所・団体等	独自のお問い合わせや説明資料を作成し、それを用いて献血協賛企業等の募集を行う。
新規献血協力企業・団体等を5社・団体を目標に増加させる。	献血協力企業・団体 増加対策	継続	企業及び団体等	4月~3月		各事業所・団体等	新規企業・団体等の開拓を行う。
企業・団体等における年間献血検体の協力を3社増加させる。	献血協力企業・団体 増加対策	継続	企業及び団体等	4月~3月		各事業所・団体等	既協力企業・団体等に対して依頼をする。

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の取組目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						方法	内容(詳細に記載すること)
複数回献血者の割合を献血者全体の35%まで上昇させる。月1回の定期メール献血要請で応答率16%を目指す。	複数回献血協力者 確保対策	継続	複数回献血クラブ会員	4月~3月	12	献血要請メール送信	毎月1回、登録会員に協力要請メールを送信する。
"	複数回献血協力者 確保対策	継続	複数回献血クラブ会員	4月~3月	12	情報提供メールの送信	毎月1回程度、全員にメールで献血要請の情報を提供し、献血への関心の持続をはかる。
"	複数回献血協力者 確保対策	継続	複数回献血クラブ会員	10月~12月	8	献血推進事業の実施 (37万検定)	会員の健康増進を図り、献血への意識をさらに高めることを目的として、専門家による健康相談を実施する。1回あたり20人の参加。
"	複数回献血協力者 確保対策	継続	複数回献血クラブ会員	3月	1	講演会の実施	複数回献血と健康増進に関する意識をさらに向上させることを目的として実施する。35人の参加。
新規登録目標数を年間1800人とする。	複数回献血協力者 確保対策	継続	全献血者	4月~3月	1	献血Friends会員募集リーフレットの作成、 情報誌等の作成	複数回献血クラブの会員増加をはかるため、とくに大学・卒業生での募集推進を強化する。また、募集する際の意識を高め、高関心メンバーをつくるため、年に6回の意識強化通信を放送する。
応答率20%	複数回献血協力者 確保対策	継続	6ヵ月前、10ヵ月前の献血者	4月~3月	12回	ハガキによる要請	6ヵ月前、10ヵ月前の400ml献血者の献血にはがきにより献血の要請を行う。
再来所率 献血ルーム分40%、一部の前期献血者から献血ルームへの来所率20%	複数回献血協力者 確保対策	一部継続	献血ルームでの400ml献血者 (一部の前期献血者も含む)	4月~H24、4月	男性3回 女性2回	キャンペーンカードの配布	献血ルーム(一部の前期献血者を含む)での400ml献血者にキャンペーンカードを配付し、次回も献血ルームでの400ml献血を依頼し、次回受付時にキャンペーンカードと引き換えに記念品を送る。

⑤ その他

平成23年度の取組目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						方法	内容(詳細に記載すること)
応答率20%	お誕生日キャンペーン	新規	誕生日月の献血者	4月~3月	12回	ハガキによる要請	誕生日を過ぎた献血者にハガキにより献血の要請を行い応答率には記念品を送る。
応答率20%	リターン献血キャンペーン	新規	H18年度~H22年度の献血者	11月~3月	5回	ハガキによる要請	H18年度~H22年度の協力者で、献血間隔が長い献血者にはハガキにより献血の要請を行い、記念品を送る。

平成23年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

大阪府 赤十字血液センター

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数量目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法
10~20歳代の献血を25%まで引き上げる (H21年度は22.4%)	献血セミナー	継続	高校生、専門学校生	7月~1月	5回	血液センター 高校生を対象とした献血セミナーを血液センターで開催、専門学校生にはセミナー及び献血プラクティクスを実施。
10~20歳代の献血を25%まで引き上げる (H21年度は22.4%)	指定施設における若年層の200mL献血の積極的な受入れ	新規	10~20歳代の若年層	4月~3月		指定施設において、若年層を中心として、200mL献血を受入れる。(H21年度は3,700人等の予定)

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数量目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法
小学生やその父兄内付の見学会の参加 (1,200名)	おもしろセミナー	継続	小学校低学年とその父兄	7月~8月	1回	血液センター 小学校低学年とその父兄を対象にクイズ形式の講話や施設見学を実施する。

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数量目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法
新規協力企業(団体)の確保 (60社)	海外活動	継続	企業・団体	4月~3月		移動献血車 推進団体の協力を得、団体献血に取り組み企業団体を増やす。

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数量目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法
ハガキによる応募率が10%以上にする	依頼ハガキ	継続	献血協賛者	4月~3月		応募者キャンペーンの実施 応募者に対する記念品を作成する
新規Eメール会員の獲得数、年間1万人	けんけつEメール会	新規	献血協賛者	7月~3月		新規Eメール会員の獲得数 新規Eメール会員の記念品を推進するキャンペーンを実施

⑤ その他

平成23年度の数量目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法

平成23年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

兵庫県 赤十字血液センター

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数量目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法
400名以上	若年層献血セミナー	継続	小中高校及び大学など	4月~3月	4回以上	各学校及び血液センター 両者の安定的な献血者確保に資するため、幅広い年齢層を対象にH22年度実績である4回(大学生対象2回、高校生2回)以上の実施を目指し、新たな実施校の開拓を行う。
県内の高校2~3年生全員	17歳の献血キャンペーン	新規	高校2~3年生	4月~3月	1回	県内高等学校 献血推進委員会に準じ、今年度まで実施していた「17歳の献血キャンペーン」から移行。県内50,000人(H22年度実績)以上の高校2~3年生を対象に献血開始の拡大を図る。

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数量目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法
320人以上	青少年等献血ふれあい事業	継続	小中高校生(保護者含む)	4月~3月	多頻	血液センター等 各団体協賛(保護者含む)を推進し、献血の必要性及び重要性を学ぶ機会を創出し将来の献血者を育成する。
100人以上	夏休み子ども見学会	継続	小学生	7~8月	1~2回	血液センター 献血についての講話・施設見学・本社から届けられたDVD鑑賞等。団体については、希望者数に応じH22年度実績100名。

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数量目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法
124団体	献血協賛企業等推進事業	継続	企業・団体	4月~3月	150回	企業・団体 管内の協賛企業・団体を訪問し、ロゴマークを配布する。

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数量目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法
過去献血者数に対する年2回以上の献血者数の割合を27%を目指す。	複数回献血協力者確保対策	継続	年1回の献血者	4月~3月		はがき・封筒による献血依頼 年1回の献血者10万人に対し、はがきや封筒による複数回の献血協力依頼をする。

⑤ その他

平成23年度の数量目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期	回数	方法
医療機関からの需要に応じたため200~400mL献血を行い、400mL献血を1層推進する。 (200mL献血約4,000名/400mL献血約約15%)	400mL献血推進	新規	全県献血者	4月~3月		1. テラシ、電圧、パルコン(モバイル)の活用 2. キャンペーンの実施 1. 200mL献血の必要量と400mL献血の必要性のテラシ、電圧等の資料の活用と献血会場での200mL献血状況のリアルタイム表示 2. 複数献血者数目標をPRするキャンペーンを実施

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						予定場所	内容(詳細に記載すること)
年2回献血、参加50人	セミナー開催	継続	高校生、専門学校生、短大生、大学生、社会人	4月～3月	2	血液センター	献血の現状
年10校献血実施	高校献血	新規	高校生	4月～3月	10	各高校	高校生への普及啓発
献血者数全体の5%増(17校対象) 上記(高校献血含む)	大学・短大献血	新規	大学、短大生	4月～3月	25	各大学・各短大	大学生、短大生の普及啓発

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						予定場所	内容(詳細に記載すること)
300人以上の参加	献血まるわかりゼミ	継続	小学生	7月～8月	6	血液センター	小学生への献血知識向上

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						予定場所	内容(詳細に記載すること)
24社登録	新規開拓	継続	企業及び団体	4月～3月	24	各事業所等	新規献血協力企業・団体の確保
12社登録	休眠開拓	継続	企業及び団体	4月～3月	12	各事業所等	休眠事業所・団体の再開の働きかけ

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						方法	内容(詳細に記載すること)
平均年間献血回数1.3回	複数回献血キャンペーン	継続	400mL献血可能者	4月～3月		カード配布	移動献血車にて400mL献血を2回以上協力
400mL献血協力者の5%	複数回献血キャンペーン	新規	400mL献血可能者	4月～3月		チラシ・カード配布	移動献血車にて400mL献血者に成分献血をチャレンジ協力

⑤ その他

平成23年度の数値目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						方法	内容(詳細に記載すること)
年4回実施	固定複数献血者の増加	新規	献血希望者	4月～3月	4	ホームページとメールを併用し案内	ウィークデイに実施し、記念品を贈呈

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						予定場所	内容(詳細に記載すること)
キャンペーン中の16歳～29歳の若年層献血者数を30%にする	学生献血推進協議会主催キャンペーン	継続	若年層を中心とする献血者	7月～2月	7回	県下一円	カーキキャンペーン、クリスマスキャンペーン以外に県内若年層学生献血推進キャンペーン(駅名)を複数、県下5府で献血車の記事並びに学生による若年層を中心とした献血の呼びかけを実施する。
高校生の献血者数を1000人にする	高校生献血学習	継続	高校生	通年	未定	県下一円	職員・外部講師による献血講座を実施し、後日の校内献血または校外での献血参加意識を高める。
4校でセミナー実施 受講者約600人	若年層献血セミナー	継続	大学生、専門学校生	通年	3回	大学、専門学校	大学(2校)、専門学校(2校)で場所を複数し、講演・展示を行う。

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						予定場所	内容(詳細に記載すること)
60歳以上の献血者を10%にする		継続	60歳以上の住民	4～3月			高齢者は高齢者が多く、若者が少ない県である。60歳以上の献血可能者(特に60～64歳)1,500人に献血の案内を送り、献血を促すことにより献血可能年齢の基盤を固め、高齢者の献血を増やす。
血液管理センター見学を実施に当たり、各新聞社へプレスリリース、県センターホームページへ掲載し希望小学生40人以上募集	若少年等献血ふれあい事業	継続	小学生	7～8月	2回	血液管理センター(稲佐山)	小学生に献血に興味を持ってもらい、将来の献血につながる。また、同伴の保護者の方にも改めて献血について認識していただき、献血に参加をお願いする。
病院実施校への協力依頼及び各新聞社へのプレスリリースを行い100人の参加者確保	若少年等献血ふれあい事業	継続	小学生を中心とする子供達	9～11月	2回	献血会場、小学校	献血車見学、成材体験と説明により献血に関心を持ってもらう。

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						予定場所	内容(詳細に記載すること)
新規企業・団体5社獲得	新規献血協力企業の開拓	継続	企業・団体	通年			県、各市町村担当者から事業所・団体の情報いただくと共に献血協力へのアプローチを行い新規事業所・団体の開拓を行う。

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						方法	内容(詳細に記載すること)
1,000人の複数回献血クラブ新規加入	複数回献血協力者確保対策	継続	複数回献血クラブ未加入者	通年	随時	献血会場	献血時、クラブの企業内のチラシを渡し説明する。特にメールの届いていない、若くは年層にターゲットを絞って積極的に勧誘してみる。
応募者7,360人(応募率8%) ハガキ検閲後68万人 メール送付6回	複数回献血協力者確保対策	継続	献血者(過去3年) 複数回献血から一定期間未献血者	通年	随時	電子メール・ハガキによる案内・依頼	ハガキ7万通(過去3年間献血していた方より検閲) メール12,000人(2000人×6回:献血のイベント発着時に会員に呼びかける) 複数回献血より一定期間未献血者にハガキで依頼
180人に複数回献血 継続相談:メール2回、120人・バス3回、60人	複数回相談	継続	献血者、献血不継続者	通年	6回	献血会場	献血者、献血不継続者に複数回献血決定や複数回献血を行うことにより献血のアドバンテージと関心を持ってもらい、次回献血に繋げる。

⑤ その他

平成23年度の数値目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						方法	内容(詳細に記載すること)
講演回数10回 うち7校・団体に献血実施、受付数100～300人	献血出張講座の実施	継続	小・中学校(児童を含む) 高校・大学・専門学校・団体	通年	10	講演の実施	講演を行うことにより献血に関心を持っていただき、今後の献血に繋げる。

平成23年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

① 若年層献血者確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						予定場所	内容(詳細に記載すること)
年間12回開催し、参加者400人を確保とする。	献血セミナー	継続	小・中学生及び保護者、大学生、県・市派遣採用職員	4月～3月	12回	血液センター 県庁 鳥取大学	献血に関するセミナーを開催し、献血への理解を深めてもらい、献血協力をいただく。セミナーは年間12回とし、パワーポイントを使用する。
キャンペーン期間中の10代20代の構成比を30%以上にする。	若年層献血キャンペーン	継続	高校生及び大学生	4月～3月	6回	献血固定施設 移動献血車	毎週の日、次の日やハルゲンライン等の時間を活用し、チラシ等を配布することにより献血の必要性を喚起していただく。
18歳から29歳までの協力者の目標を年間10,000人とする。	若年層に対する献血啓発の強化	継続	18歳から29歳の若者	4月～3月	48回	献血固定施設 移動献血車	はがきやメールにより、献血の協力を呼び掛ける。

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						予定場所	内容(詳細に記載すること)
60歳以上の全血献血者を5%増加させる。	献血者確保対策	新規	60歳以上	4月～3月	12回	献血固定施設	はがきで献血の協力を呼びかける(200名程度)
50歳以上の男性成分献血者を20%増加させる。	献血者確保対策	新規	54歳以上の男性	4月～3月	12回	献血固定施設	はがきで献血の協力を呼びかける(200名程度)
10代の男性400mL献血者を30%増加させる。	献血者確保対策	新規	17歳の男性	4月～3月		移動献血車	学校を訪問し、周知を図る。(15校)

③ 企業等における献血の推進対策

平成23年度の数値目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						予定場所	内容(詳細に記載すること)
5社の増加	緊急要請可能な企業への確保	継続	献血固定施設近隣企業	4月～3月		献血固定施設	新規事業所の開拓を行う。
10社の増加	休職企業・団体の配車の方法等の拡大	継続	献血固定施設より献血固定できない企業・団体	4月～3月		固定施設の周辺事業所	休職企業の開拓を行う。
協力企業・団体500社	事前推進の促進	継続	献血協力企業・団体	4月～3月		県内献血協力企業・団体	血液の現状を周知するチラシを事前に持参し、周知を図る。
献血推進活動回数12回増やす	パイオニアクラブ等の巡回強化	継続	献血推進協力団体	4月～3月	24回	県内献血推進協力団体	団体主催の事業や学芸会等に積極的に出向き、現状を説明し、理解を求め実施回数を増加していく。

④ 複数回献血協力者の確保対策

平成23年度の数値目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						方法	内容(詳細に記載すること)
応答率が30%以上とする。	複数回献血協力者確保対策	継続	献血推進クラブ会員	4月～3月	24回	電子メールによる協力依頼	会員に対し、電子メールにより複数回の献血協力依頼をする。
応答率が30%以上とする。	新規献血者の協力者確保対策	継続	献血推進からの一定期間の未献血者	4月～3月	12回	はがきによる依頼	はがきで献血の協力を呼びかける(1ヵ月100名程度)
10企業・団体の増加	企業・団体の年間回数の増加	継続	年1回実施の企業・団体	4月～3月	随時	年1回実施の企業・団体を訪問する	血液の現状を説明することにより、理解を求め年間実施回数の増加を図る。
新規会員500人の登録	新規登録者の確保対策	継続	献血推進クラブ会員	4月～3月	随時	各献血会場において献血推進クラブ会員の募集を強化する	献血推進クラブ会員の募集を強化する。

⑤ その他

平成23年度の数値目標	事業名	新規・継続	対象者	実施時期	回数	具体的な対策・事業内容	
						方法	内容(詳細に記載すること)
午前中の血小版献血協力者を15人に増加させる。	午前中の成分献血者の確保	継続	成分献血者	4月～3月	2,500回程度	電話による募集 予約制の導入	400mL献血協力者にも説明し、成分献血協力者の開拓を図る。 予約制を導入することにより、安定した確保を行う。